グローバル・アクセラレーション・ハブ（GAH）メンバーインタビュー

平井　昭光　Akimitsu Hirai
C4U 代表取締役、CEO
Linkedin

1. **この度はインタビューのお時間をいただき、ありがとうございます。まず、自己紹介をお願いいたします。**

この度は貴重な機会を頂き、ありがとうございます。私の名前は平井昭光（ひらいあきみつ）といいまして、現在、日本のバイオベンチャーである C4U Corporation の代表取締役社長・CEO を務めています。
私は、もともと日本で弁護士をしており、1993 年から 1995 年の間にワシントン大学へ留学し、LL.M.を取得しました。そして、その頃に当時非常に発展していたバイオテクノロジーに興味を持ち、ワシントン大学在学中に勉強したことがバイオテクノロジーに深く関与することとなったきっかけです。
そして、日本に帰国後、弁理士の資格を取得し、大手の法律事務所でライセンスや製薬企業のサポートをしていました。そのような仕事をしている中で、段々と

バイオベンチャーへのアドバイスやサポートの仕事が増え、社外役員に就任する機会も増えて、少しずつ経営に深く関与するようになりました。その結果、バイオベンチャーだけでも、役員として３社の東証への上場に関与することができました。
そして、C4U のファウンダーである真下知士教授と友人を介して知り合い、経営を任されることになったのです。

2. 貴社について、また貴社の目標について少し説明していただけないでしょうか。

C4U の非常に重要な目標は、遺伝子治療の技術によって、これまで治療することができなかった患者さん、非常に稀な病気の患者さんらを治療することです。C4U の基盤となる技術は、CRISPR-Cas3 というゲノム編集の技術なので、その技術の特徴を生かして、未来の新しい医療を想像することが重要な目標です。CRISPR-Cas3 を用いると、患者さんの問題のある遺伝子をきわめて高精度で見つけ出すことが可能です。そして、その遺伝子のうち問題のある部分を削ったり、変更したりすることができるのです。この技術によって、患者さんから採取した細胞を正しく修復して患者さんに戻したり、直接患者さんの体内に CRISPR-Cas3 を導入して治療することが可能となります。

3. C4U を海外展開しようとした動機や、きっかけは何でしょうか？

C4U のセグメントは医療や製薬となります。人々の健康の問題、そして病気の問題は人類共通で、そもそもがグローバルなものといってよいでしょう。よって、患者さんの治療を目指す C4U も当然のことながら、グローバルに業務を展開させることが必要となります。
世界各地の企業と提携をしながら、あるいはグローバルな企業と提携をして、世界中の患者さんに CRISPR-Cas3 の技術を提供し、医療を提供することが C4U の使命と思っています。

4. 海外展開の際に、苦労した点は何でしょうか。そのような点を乗り越えるために、GAH はどのように役に立ちましたか。

日本の海外展開については、いくつかの壁があります。言語の違い、極東にあることによる地理的な距離の問題、交渉を得意としない民族性の問題、などです。GAH は、まず、そのネットワークを通じて Mass Bio での英語による専門的なプレゼンテーションの能力をアップする機会を与えてくれました。また、ピッチコンテストを通じて、英語を用いた表現力の向上の機会を与えてくれました。
そして、GAH に参加することによって、CIC Tokyo はもちろん、CIC Cambridge など様々な拠点を通じて、必要な現地にアクセスをすることが容易となりました。これは地理的な距離を縮めるために、非常に大きな効果があります。また、GAH の非常に丁寧かつ面倒見の良いアドバイザーから、時々に応じてアドバイスを頂くことによって、私たちの消極性を積極性に転換する機会を与えて頂きました。
このように、JETRO、そして GAH は私たちに非常に有益なサポートを与えてくれました。

5. GAH の提供するサービス（コワーキング、メンタリング、マッチング等）をどのように活用されましたか？

コワーキングはとても有用なサービスです。Cambridge という科学者、ベンチャー関係者、投資家の集積度の高い場所で、安価に仕事をする環境を得ることができ、コワーキングでのコミュニケーションを通じて現地でのネットワークを充実させる機会を得ることが可能となります。
また、GAH のメンターから丁寧なアドバイスを受けることで、ピッチの内容を相手方（欧米の人々、製薬企業の人々等）から「理解されやすい」ものへとブラッシュアップすることができました。自分の頭で考えると、ピッチの内容も独り

よがりのものとなりかねません。メンタリングを受けることで、それがグローバルなものへと変容するのです。
マッチングについても、GAH のアドバイザーから、C4U のニーズに応じて機会を頂き、コンタクトに成功しています。やはり、現地でのネットワークの中にいる人の助力は大きいです。今後もマッチングでのサポートには期待しています。

6. GAH を通じて、ボストンでどのようなコネクションを得ることができたでしょうか？

Cambridge の CIC で仕事をすることで、早速、コワーキングにいた日本の会社とお話をすることができました。また、Cambridge に存在する製薬企業とのアポイントにも成功しています。さらには、ヨーロッパの企業の担当者と CIC でミーティングをすることで、さらなる事業展開の可能性も見出すことができました。
このようにボストンでは様々コネクションを得ることができましたし、今後もその機会は増えるものと思います。

7. 日本発のスタートアップが海外展開を検討する際に、ボストンが重要な拠点となる理由は何でしょうか。

一つは、ボストン、とくに Cambridge エリアにおける関係者の集積度が高いということでしょう。やはり距離が近いとコミュニケーションの機会も増え、さらにより密接になることができます。アメリカにはいくつかインキュベーションのエリアがありますが、この点がボストンの大きな特徴です。
次に、バイオと IT の双方に関して、非常に高いサイエンスが存在しているということでしょう。ベンチャーは、サイエンスに依存する点が大きいので、バイオと IT の双方においてレベルが高いのは極めて貴重です。

最後に、寄附及び投資を含む資金調達の機会が多いことです。時々の事情によって異なりますが、安定して最先端の事業に大きな資金が流入する機会が多いのは、アメリカ、そしてボストンの大きな特徴となります。研究所やベンチャーが成功した先駆者によって支えられているのは素晴らしいことだと思います。

8. 世界の科学業界では、最近、CRISPR が話題になっています。この CRISPR への世界的な関心が、C4U にどのような影響を与えましたか？

CRISPR-Cas9 の発明者がノーベル賞を受賞し、また、Cas9 を用いた治療が治験で実証されつつあり、現在、CRISPR は大きな注目を集めています。これは、同じ CRISPR の仲間である Cas3 にとっても大きな意味があります。
Cas9 には、良い点もあれば課題もあります。このような状況の中で、Cas3 がその有する優れた特徴を発揮すれば、Cas9 にも勝るとも劣らない結果を出すことができます。ぜひ、この世界的な関心を活かして、Cas3 をいろいろな企業に使っていただけるように頑張っていきたいと思います。

9. 海外展開を検討する日本発のスタートアップに、何かアドバイスはありますか。

海外展開には様々障害もあり、リスクもあります。しかし、それを超えられるのがベンチャーであり、アントレプレナーシップだと思います。ぜひ、自ら有する技術やサービスの特徴をアピールして、世界で成功してもらいたいと思います。
C4U もますます GAH のアシストを得て、アメリカを含め海外で事業を展開していきたいと思います。

以上